

新臨床研修制度における病院図書室の支援

天野いづみ¹⁾ 井指喜代江²⁾ 望月雅子³⁾

1)静岡赤十字病院医学図書室 2)聖隷三方原病院図書室

3)袋井市立袋井市民病院図書室

背景：平成16年度から新臨床研修制度が開始された。この制度では、卒後臨床研修が必修化され、今まで大学附属病院で研修を行っていた多くの研修医が、新制度のマッチング方式により臨床研修指定病院で研修を行うこととなった。病院図書室は大学附属図書館に比べ、図書・雑誌の蔵書数、インターネット環境の規模が違う。しかし研修医に大学附属図書館と同等の情報を提供するためにも、有益なデータベースや環境を整えることが必要となってきた。

目的：病院図書室で導入しているデータベースや雑誌、図書が実際に研修医にとって効果的に利用されているか、図書室が十分に活用されているかを調査、検討した。

方法：厚生労働省の臨床研修プログラム検索サイトから、研修医を受け入れている病院を調べ、東海地区の病院を中心に135病院にアンケートを行った。アンケートは、平成17年3月～5月に実施、各病院の臨床研修担当係へ郵送し、図書室担当者へ図書、雑誌、電子ジャーナルの導入状況等、研修医には、活用しているデータベースやオリエンテーションについての内容調査のアンケートを配布、回収を依頼した。72病院の図書室担当者（回答率53.3%）、研修医301名（回答率24.9%）から回答を得た（平成17年5月19日現在）。

結果：1. 図書室が24時間利用できるのは、65病院（90.2%）であった。2. 制度以前からの文献検索データベースとして、「PubMed」「医学中央雑誌」が共に60病院と多く、制度に向けて導入したデータベースは、「UpToDate」17病院、「今日の診療」9病院であった。実際に研修医が活用、また今後導入を希望しているデータベースも上記が多かった。

3. 研修医に対してオリエンテーションを行っている病院は42病院（59%）、研修医にとって役に立った説明は、図書室利用案内が134名、文献検索103名（複数回答）であった。

4. 図書室に対する要望としては、「図書、雑誌、パソコンの台数の不足」、「24時間利用」「図書室以外で検索ができるように」「ローテートする科の最新の専門書を置いて欲しい」等があげられた。

考察：研修医に役立つ図書や雑誌を所蔵すること、また数多くの文献検索データベースの選定や、電子ジャーナルの導入などのハード面のほかに、そのデータベースの検索指導等病院図書室としての役割は数多くある。多忙な業務の中で、研修医がデータベースを活用し、Evidence Based Medicineを臨床で実践できるよう、適確な情報源を選び臨床研修医に提供することが必要である。今回のアンケート調査により、研修医の声を直接聞くことができ、オリエンテーションの重要性を実感した。今後の図書室整備の参考にしていきたい。